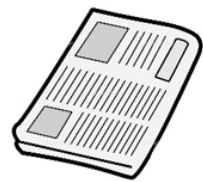


~有关遗华日本人等、中国(库页岛)归国者の新闻~

ちゅうごくざんりゅうほうじんとう ちゅうごく さはりん きこくしゃかんれん にゅーす
~中国残留邦人等・中国(サハリン)帰国者関連のニュース~



2019年12月1日(星期日)

11月30日、兵庫県尼崎市举办了“加深对遗华日本人理解的集会”。集会上，田中义裕先生(87岁)讲述了他坚持不懈寻找留在中国的弟弟，并最终找到了弟弟的经历。1943年，田中先生随着父母以及兄弟姐妹一家7口人加入了开拓团，一起到了旧满洲。父亲在旧满洲过世。战争结束后，母亲把两个年幼的弟弟托付给了当地的中国人。回顾那段岁月，田中先生说：“当时，只能那么做。实在是太悲惨了。”

12月11日(星期三)

厚生劳动省公布，两名遗华日本人的集体暂时回国(一行4人：遗华日本人两名、护理人员两名)日程是从12月12日(星期四)到12月24日(星期二)，共13天。委托公益财团法人中国残留孤儿援护基金实施。在日本期间，除了看望亲人和老相识、扫墓以外，还预计到东京近郊参观等。



12月22日(星期日)

至今为止一直坚持对近200名中国归国者等进行采访的埼玉县川越市的原短期大学讲师藤沼敏子女士，出版了证言集《逃生于劫波乱世——34名遗华日本女性的劫难余生》。这本书基本上如实地记录了当事人的讲述，是珍贵的口述历史资料。

2020年1月3日(星期五)

1月3日，《朝日新闻》刊载了对居住在中国的遗华日本孤儿渡部宏一(84岁)先生的采访文章。渡部先生出生于山形县，5岁时随家人前往

2019年12月1日(日)

兵庫県尼崎市で11月30日、「中国残留日本人への理解を深める集い」が開かれ、中国に残留した弟を探し続けて再会を果たした田中義裕さん(87)が体験を語った。田中さんは1943年、両親と兄弟の計7人で开拓团に加わり、旧満洲に渡った。父が亡くなり、終戦後、母は幼かった弟2人を現地(中国)に預けたのだという。田中さんは「当時はそうするしかなかった。悲惨だった」と振り返った。

12月11日(水)

厚生労働省は、中国残留邦人2名の集団一時帰国(一行4名：残留邦人2名、介護人2名)の日程が、12月12日(木)から12月24日(火)までの13日間になったと発表した。公益財団法人中国残留孤儿援护基金に委託して行う。日本滞在中は、肉親や知人との再会、墓参のほか、東京近郊見学などを行う。

12月22日(日)

これまでに中国帰国者ら200人近くのインタビューを続けてきた埼玉県川越市の元短大講師・藤沼敏子さんが、このほど証言集『不条理を生き抜いて——34人の中国残留婦人たち』を出版した。本人たちの語りをほぼそのまま記し、貴重な口述の歴史資料となっている。



2020年1月3日(金)

1月3日付『朝日新聞』に、中国在住の日本人

中国旧満州，在战争的混乱中成了遗华日本孤儿。现在，渡部先生依然以“王林起”的名字与养母一起生活在北京。在采访中，渡部先生对他一直纠结于两个祖国之间的人生做了回顾。（注：渡部宏一先生的自传《我在中国 75 年》已在中国出版）



2月9日（星期日）

2月9日，九州中国归国者支援・交流中心在北九州市举办了支援中国归国者的志愿者研修会“学堂”——思考中国归国者的历史、现在和未来。研修会上，有关于遗华日本人的出生背景、中国归国者现状的演讲，还有“传承遗华日本人等的经历与苦难的战后世代讲述人”进行的讲述。讲述人是归国者二代，讲述的是作为遗华孤儿的自己母亲的经历。

2月13日（星期四）

2月13日晚，在参议院会馆讲堂里上映了纪录片《被日本人遗忘的——记遗留在菲律宾以及中国的日本人》。这是一部展示遗留在菲律宾和中国的日本人各自的历史背景、恢复国籍的历程，突显他们现存问题的作品。这部纪录片预计将在全国陆续公映。



4月6日（星期一）

《每日新闻》报道了高知市有一所日托护理机构，深受战后被遗留在中国旧満州、后来返回日本的遗华日本人及其家属喜爱，现已成为他们放松心情的场所。这就是2006年开设的“山桃”。40名利用者中，有8位70到90多岁的遗华日本人和其伴侣。为了做好接受遗华日本人等的准备，工作人员练习学说中文等。这里没有将遗华日本人等分别对待，而是让他们与一般利用者一起活动，受到了人们的好评。

残留孤児・渡部宏一さん(84)のインタビュー記事が掲載された。渡部さんは山形県で生まれ、5歳の時に家族と共に旧満州へ渡ったのち、戦争の混乱で日本人残留孤児となった。今も「王林起」として養母と北京で暮らしており、二つの祖国の間で揺れ続けた人生を振り返っている。（注：渡部宏一さんは自伝「我在中国75年（私の中国での75年）」を中国で出版している。）

2月9日（日）

北九州市で2月9日、中国帰国者支援のためのボランティア研修会「まなびや」～中国帰国者の歴史、今、これからの考える～が開催された。九州中国帰国者支援・交流センターの主催によるもので、会では中国残留邦人が生まれた背景や、中国帰国者の現状についての講演や、「中国残留邦人等の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部」による講話が行われた。講話は、帰国者2世である語り部が、残留孤児である母の体験を語った。

2月13日（木）

ドキュメンタリー映画『日本人の忘れもの フィリピンと中国の残留邦人』の完成披露試写会が2月13日夜、参議院会館講堂で開かれた。フィリピン残留日本人と中国残留邦人それぞれの歴史的背景や、国籍回復への道を描き、現状の問題を浮き彫りにした作品。全国で順次公開予定。

4月6日（月）

高知市に、終戦後に中国の旧満洲に取り残され、後に日本に戻った中国残留邦人やその家族の憩いの場となっている通所介護施設があると『毎日新聞』で紹介された。2006年に開所した「やまもも」だ。在籍者40人のうち、70～90代の8人が中国残留邦人やその配偶者。職員が中国語を練習するなどして受け入れ態勢を整え、一般利用者と分け隔

4月8日(星期三)

据日本库页岛协会发行的《海鸥》报道，受新型冠状病毒的影响，本年度的来自库页岛以及大陆的集体暂时回国的日程有了变更。更改后的日程为8月17日~27日、9月28日~10月8日。不过，如果感染持续扩大，预定计划有可能会再次做出更改。(注：以往每年都是5月实施)



5月13日(星期三)

《每日新闻》报道了兵库县尼崎市的面向遗华日本人的日托护理机构“三和之家”因受新型冠状病毒感染扩大的影响而陷入困境的窘况。

“三和之家”是田山华荣女士(61岁)于今年1月刚刚开设的，虽然国家有发放持续化补助金政策，但援助对象的基本条件是要有前一年的营业额。深知遗华日本人等的“老老护理”以及老人独自生活现状的田山女士，抱着“一起共同生活下去的机构是绝对需要的”信念，为确保运营资金四处奔走。

◆请注意：本栏目的新闻为见诸报端的报道摘要，并非政府正式公布的内容，其中一部分还包含媒体的观察消息。



てなく過ごせる空間が好評という。

4月8日(水)

日本サハリン協会発行の『チャイカ』によれば、今年度のサハリンおよび大陸からの集団一時帰国の日程が、新型コロナウイルスの影響により変更された。変更後の日程は8月17日~27日、9月28日~10月8日となったが、感染拡大が続けば、予定はさらに変更される可能性があるという。(注：例年5月に行われていた。)



5月13日(水)

『毎日新聞』は、兵庫県尼崎市の中国残留邦人向け通所介護施設「三和之家」が、新型コロナウイルス感染拡大の影響で苦境に陥っていると伝えた。「三和之家」は田山華栄さん(61)が今年1月に開設したばかりで、前年の売り上げが要件となる国の持続化給付金は対象外だ。残留邦人の老々介護や一人暮らしの様子を見てきた田山さんは、「共に生きる施設は絶対に必要」と運営資金の確保に奔走しているという。

◆ご注意：本欄の内容は、一般の新聞などで報道された内容を中心に要約して掲載しています。したがって、政府が公式に発表したものではなく、一部には報道機関の観測記事なども含まれています。

